

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000229		
法人名	社会福祉法人 北見睦会		
事業所名	グループホームかがやきの里むつみ5号館・6号館		
所在地	北見市端野町端野25番2		
自己評価作成日	平成29年1月17日	評価結果市町村受理日	平成29年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://saku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=0195000229-00&PrefCd=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成29年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホーム理念を基本に施設での生活が健康、楽しく、安心していただけるよう支援しています。
・地域の方々の慰問や交流の場を持って市越での生活を楽しまれるよう支援しています。
・明るく楽しくのびのびと生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

端野自治区の旧市街地に、小規模多機能事業所、地域密着型特別養護老人ホームと併設されているグループホームかがやきの里むつみ5号館・6号館は平成19年開設され、平成21年に現在の法人により再スタートしています。法人内のグループホーム共通の「ゆっくり、すこしずつ、自分らしく、ありのまま」を理念として、尊厳ある生活が維持できるように、ありのままの利用者を支援するよう取り組んでおり、あくまでも利用者本位の介護を目指しています。排泄は送り記録で、職員が情報を共有できるよう簡潔に記録されその利用者にあった支援に取り組んでいます。月に一回、パン食とし好みにあったパンを本人が購入する楽しさも演出しています。また希望の利用者は小規模多機能事業所を訪問し歌やゲームを楽しんでいます。敷地内には三つの事業所が有り災害時には互いに協力して取り組めるよう現在防災計画を作成しています。地域町内会とは防災訓練や施設焼き肉会に協力を得ており積極的な交流を行っています。利用者家族とのコミュニケーションはとれており、家族の希望や要望、意見を積極的に聴き、希望があれば終末期の看取りを行い利用者の尊厳を損なわない様な支援を行い家族から信頼を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の共通理念を見やすいところに掲示し、職員一同共有し、利用者様が安心して生活できるよう努めている。	法人内の共通の理念をグループホーム理念として、ユニットフロアに掲示し、また平成26年に制定され法人理念も玄関に掲示しており、職員が共有して実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域清掃、花植え等の参加、地域の保育園、小学校も慰問に来てくださいます。また、避難訓練、施設の焼肉会にはお手伝いいただき交流を深めている。	町内会に加入し、総会、清掃、花壇の花植え等は職員が参加しています。グループホーム事業の焼き肉会や防災訓練には町内回覧板で案内しお手伝い等もして頂きながら交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に行っているとは言えないが、運営推進会議等で利用者様の状態や支援の方法等発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、ご家族様、町内会、包括支援センター、地域民生委員等が構成員とし、事業報告等、そこでの意見を反映しサービス向上に努めています。	運営推進会議は併設の小規模多機能事業所と合同で、利用者家族、小規模多機能利用者、町内会役員、民生委員、高齢者相談支援センター職員の出席で開催されています。利用状況、活動報告等を行い質問、意見を得て運営に活かしています。全家族に案内と終了後の議事録を送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らないことや、困難事例に対して行政に相談し、指導を仰いでいる。	市担当者とは、困難事例の相談や報告書提出で訪問し、指導や助言を得ています。法人の研修会には高齢者相談支援センターから講師を派遣して頂き指導と協力を得ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束等の研修会が行われ理解を深め、施設全体が身体拘束を行わないケアに努めています。日中は施錠は行われていません。	身体拘束防止について毎年、法人の研修で取り組んでおり職員は、身体拘束が及ぼす弊害や指定基準における禁止対象の具体的な行為を正しく理解しています。また、行動抑制の言葉使い等、気に成る事が有る時は管理者が指導を行い、適切な支援が出来るよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待の研修会が行われ理解に努めている。入浴時、更衣時には身体をチェックをし、傷、変色等の確認をしてチェックシートに記入し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修に参加し、必要に応じ活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時説明時は、理解に努め契約後も解らないことや疑問点は、その都度対応し説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望等があれば全体で話し合い、要望に応えられるよう努めています。	利用者、家族の意見・要望は会話や面会時に把握しています。話が有った時は、生活記録や連絡、申し送りノートに記録し確認しあっています。職員間で話し合いリーダーに報告し運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等時に意見、提案、希望等を聞き検討、改善に努めている。	職員の意見や提案は毎月のユニット会議の中や業務の中で把握して改善や提案を取り入れ、介護や運営に反映させており、また、知識向上に向け、法人研修に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で資格取得の研修や補助があり、向上バックアップに繋げているが、職員不足が解消できず不満を抱えるスタッフも少なくない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修に力を入れスタッフに参加を促している。外部研修にも資料等を回覧し、トレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで、同業者との交流の機会があり、サービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時より不安、要望等を把握しサービス利用後もスタッフ全員が情報を共有し安心感を持っていただけるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時よりご本人様、ご家族様の不安、要望等を把握する努め、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、今何を必要としているのか見極め、サービスにつなげるプランを作成し対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の希望、能力に応じ、できることは一緒にできるよう共に支えあう関係に努めている。また、同じ立場に立ち共感できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で利用者様の様子等を報告しご家族様と情報を共有しともに支援していくことに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご家族や友人、知人が来所できるようになっている。また、併設の小規模多機能事業所への行き来も自由に行っています。	利用者の馴染みの美容室への訪問や買い物の希望は家族に対応して頂いています。また、嘗ては週3回自宅仏壇へのお参りが習慣と成っている利用者もあり、併設の小規模多機能事業所との交流も行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志の関係を把握し、孤立しないようスタッフが間に入り関わりあえるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も関係を大切に必要時には支援できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、仕草等で利用者様の希望、思いを汲み取るよう努め、カンファレンスやご家族様と話し合いご本人様の思いに応えられるよう努めています。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、日常の会話や家族からの情報で把握しています。意向に沿った支援は、理念や事業目的であり本人本位に成るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時、ご本人、ご家族様にお話を伺い把握に努め、今までの生活に近づけるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に一日の心身状態を記録し、体調の変化を見落とさないよう現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回カンファレンスを行い、ご本人様、ご家族様の希望、意向を反映した介護計画を作成し、スタッフ全員同じケアを行えるよう努めている。	介護計画は基本的に3ヶ月毎に、利用者や家族の要望を把握し、カンファレンスを行いながら的確なモニタリング、施設サービス計画評価を行い現状に即した介護計画を作成しています。送り記録は主に排泄記録を中心に職員との共有を図っています。	介護計画のサービス提供状況が確認でき、見直しに活用出来るような生活記録の取り組みを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を生活記録、送りノートに記録しスタッフ一同情報を共有し実践、カンファレンスで話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の状況や要望に応じ、ご本人様、ご家族様と相談し、可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の慰問、カラオケ、踊りの慰問のほか、花見、買い物、外食等楽しんでいただいている。安全面では緊急時に備え交番に情報提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様と相談し、希望する医療機関に受診されています。ご家族様が受診対応できないときや緊急時には事業所が対応し、診療結果報告等をご家族様に報告しています。	受診は希望するかかりつけ医で家族対応を基本とし、外来受診の難しい利用者は訪問診療体制をとっています。週1回の訪問看護師による健康管理と24時間の連絡体制を整えています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護を受け、情報共有し必要な医療やケアの方針について意見等いただいている。また、急変時、報告、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、情報を提供し病院にも足を運び、医療関係者、ご家族様ともに連携した関係づくりをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時等で説明を行い理解に努めています。重度化した場合は、その都度ご家族様と事業所の限界も説明させていただき対応している。また、終末期にはご家族様、事業所、医師、訪問看護師、スタッフ共に方針を共有し支援に取り組んでいます。	契約時に重度化した場合における対応に係る指針をもとに利用者・家族に説明し、同意書を交わしています。又、看取りに入った際には看取り契約書を交わしています。本年度、1名の方の看取りが行われチームで希望に添った支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、緊急マニュアルが作成されており、スタッフと共有している。救命講習会にも参加し素早く対応できるよう学んでいます。事業所にはAEDが設置しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時連絡網を作成、年二回消防訓練、年一回災害時訓練を行い、終了後検証し問題点を運営推進会議等で報告、意見等をいただき反映している。	避難訓練2回と地震訓練1回を併設している小規模と合同で実施し、新たな避難場所の確保と停電時の対応強化に取り組んでいます。そのうち1回は消防立会いのもと、夜間想定で避難訓練を行っています。町内会へは回覧板で参加協力をお願いしています。	新たな防災計画、備蓄、暖房等については3月末をめどに法人本部と話し合いを行っています。事業所はそれに基づいた防災対応の強化が図られるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、言葉かけに心がけているが、そうでないときもあり、スタッフ同士意識を高めあい、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めたい。	事業計画に尊厳ある生活を維持できるようありのままの利用者を支援することを目的にあげ、法人の研修を通じて職員は利用者的人格を尊重した言葉かけや対応を心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望や不満を表しやすい言葉かけ、環境づくりに心がけている。また、表現できない方は表情や行動で見分けられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れがあり、職員ペースになりがちではあるが、利用者様の意思を確認し、希望に添えるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理容師が来られ、希望を確認し利用していただいています。着替え等も確認し外出、季節、天候等にも配慮し支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や行事食を設け楽しんでいただいています。また、片付け等のお手伝いをしていただいています。	献立は職員が交代で作成し、誕生日は本人の好みものをメニューに反映しています。又、外食やお弁当を取ったり、月1回はパンの日を決め、本人が好きなのを購入できる場面を作り、楽しみとして取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に食事量、水分量を記録し対応している。一人ひとりの状態を把握し量、形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後、口腔ケアを行っている。必要に応じスタッフが対応し、清潔保持に努めている。歯科医院とも連携をとっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、トイレでの排泄ができるよう支援しています。	排泄記録を基に排泄状況を把握し、利用者本人に合った声かけ、誘導、介助でトイレでの排泄に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通の良い食事を提供、水分、運動等も個々に応じ対応、必要に応じ服薬等にて予防改善に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決めているが、希望の有無を確認し、週二回以上の入浴を行っている。	週2回の入浴を基本に利用者の希望に添った支援をしています。6号館にはリフトが設置されており、身体状況に応じて安全・安心に配慮した入浴を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣、リズムを大切に体調などに配慮し安心して休息、安眠いただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容と理解に努めている。薬の変更時は送りノート等で情報をスタッフ全員が共有している。病状変化時には看護師、かかりつけ医に報告、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別にできる範囲での役割や楽しみを支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿ってなかなかできていないが、花見、買い物等外出の機会を設けている。	散歩、外気浴の他、緑のセンターやフラワーパークへの花見、ドライブ、お弁当を持参してのバス遠足、買い物ツアー、併設している小規模多機能事業所へ出かける等、外出機会を設け楽しみや気分転換として取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時使用できるよう支援している。携帯電話を所持している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、日差し等調整、環境を整えている。また、壁には季節を感じる作品を飾り工夫している。	共有空間は明るく開放感があり、温度・湿度も適切に調整され、季節に合わせた飾り付けの工夫や通信などを掲示し、快適に過ごせるよう配慮しています。床材は柔らかな材質を使用し、安全性に考慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの活動状況に応じたテーブルの配置や席替など工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、好みの物、利用者様の使いやすいよう工夫しています。	居室にはクローゼット、洗面台が設置され使い勝手がよく、本人の使い慣れた鏡台やタンス、テレビ等を持ち込み、壁には好きな歌手のポスターや趣味のものが飾られ、自由に過ごせる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁、トイレ、廊下には手すり等が配置されており、できるだけ自立して生活が送れるよう工夫している。		